

コロナ禍における
外国人市民の生活等への
影響に関する調査研究報告書

概要版

2022年(令和4年)1月
豊中市
公益財団法人とよなか国際交流協会

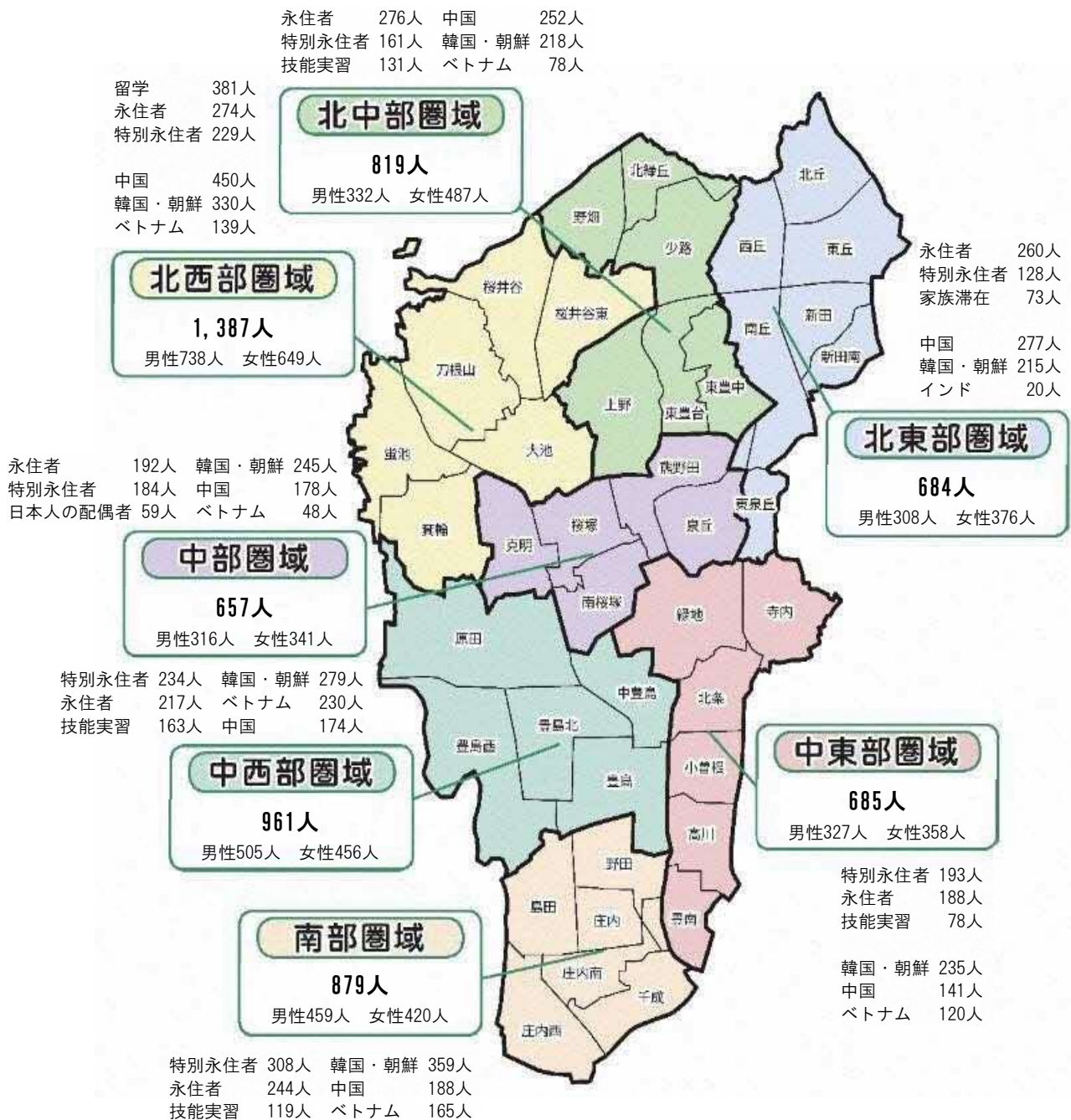
豊中市の外国人市民の状況について

豊中市には、2021年(令和3年)6月末現在、88の国籍、6,072人(男性 2,985人、女性 3,087人)の外国人市民が住んでいます。

国籍の多い順では、韓国・朝鮮が1,881人、中国が1,660人、ベトナムが797人、フィリピンが289人、インドとアメリカがそれぞれ149人となっています。

在留資格の多い順では、永住者が1,651人、特別永住者が1,437人、留学が516人、技術・人文知識・国際業務が472人、家族滞在が418人となっています。

豊中市では、高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画及び地域福祉計画等で市内を7つの圏域に分けた日常生活圏域を設定していますが、各圏域の状況は、以下のとおりです。



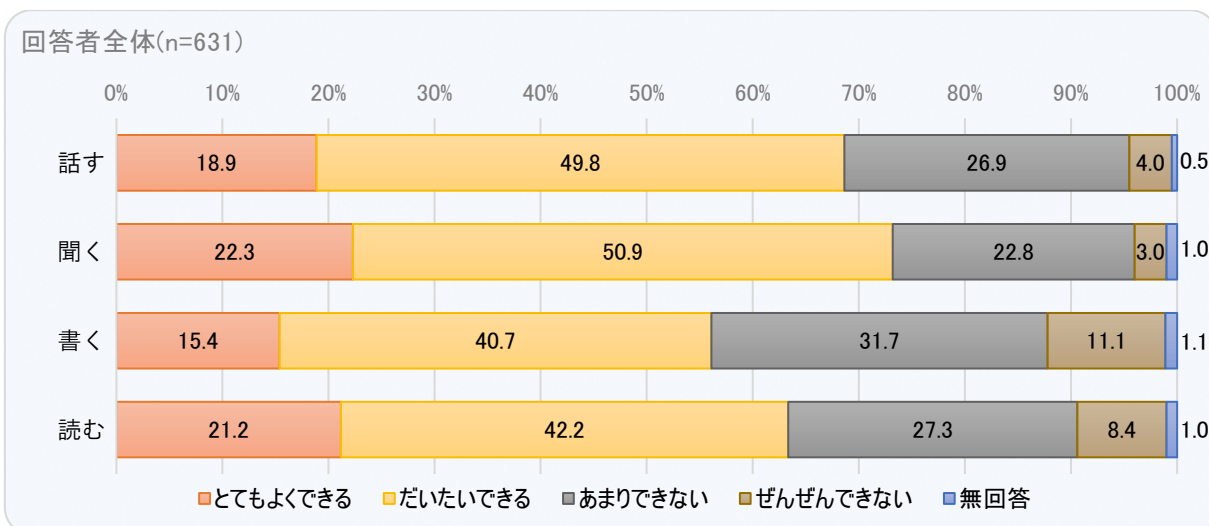
アンケート調査の概要について

調査目的	コロナ禍における外国人市民の生活等への影響や課題を把握し、今後の外国人支援や多文化共生のための地域づくりをさらに推進することを目的とする。
調査対象	豊中市内に在住する外国人市民のうち、2021年(令和3年)7月19日現在18歳以上で、在留資格が特別永住者・永住者以外の人 2,702人(悉皆)
調査方法	○対象者宛てに調査目的とアンケート回答フォームのURL、二次元バーコード等を記載した調査依頼文を郵送(居住地域別に用紙の色を変えて送付)。 ○回答方法は、①インターネット上のアンケート回答フォームによる回答、②紙の調査票による回答、③とよなか国際交流センターに来てスタッフの補助を受けながら回答、のいずれかを選択。 ○アンケート回答フォームは、やさしい日本語、英語、中国語(簡体字)、韓国・朝鮮語、ベトナム語、ネパール語の6言語を用意。
調査期間	2021年(令和3年)7月21日～8月31日
回収状況	依頼文配布数 2,702件/不達数36件/依頼文到達数a 2,666件 有効回答数b 631件(うち回答方法① 582件、②及び③ 49件) 有効回答率(依頼文到達数aに占める有効回答数bの割合) 23.7%

日本語能力について

『話す』『聞く』『書く』『読む』とも「だいたいできる」が40.7%～50.9%とそれぞれ最も多く、「とてもよくできる」の割合を合わせると、『聞く』が73.2%、『話す』が68.7%、『読む』が63.4%、『書く』が56.1%となっています。

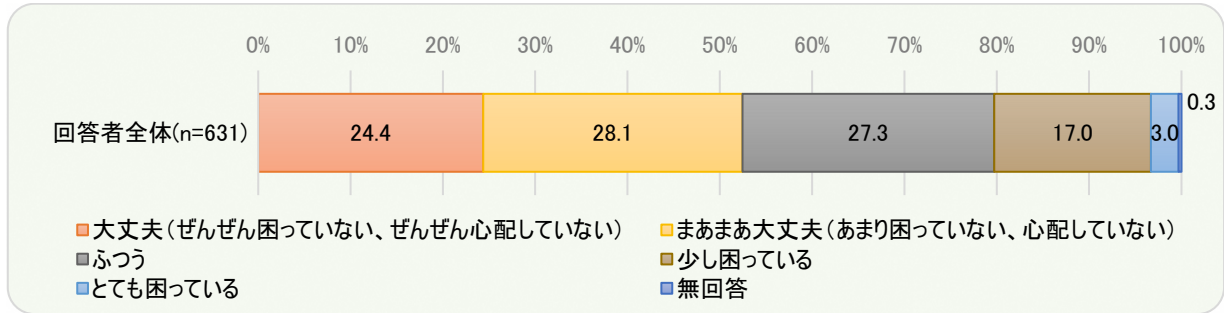
Q. あなたは、どのくらい日本語ができますか。「話す」「聞く」「書く」「読む」のひとつずつ、一番あてはまるものを選んでください。



生活費について

「まあまあ大丈夫（あまり困っていない、心配していない）」が28.1%、「ふつう」が27.3%、「大丈夫（ぜんぜん困っていない、ぜんぜん心配していない）」が24.4%、「少し困っている」が17.0%、「とても困っている」が3.0%となっています。

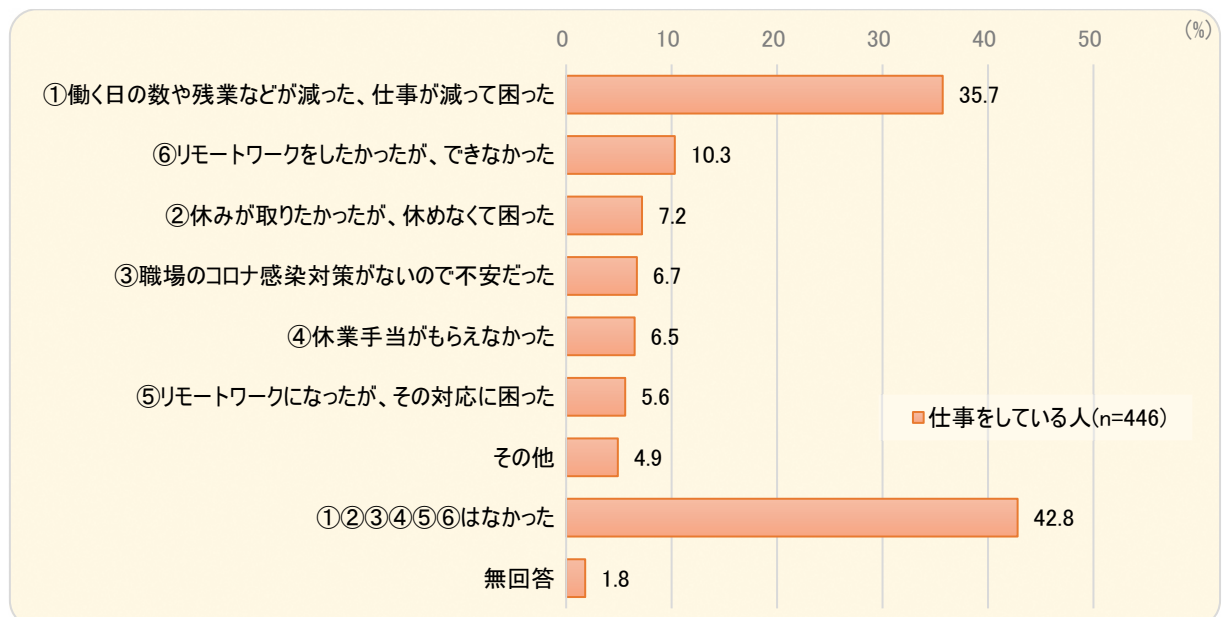
Q. 今、生活のためのお金で困っていませんか。



コロナによる仕事の変化について

「①②③④⑤⑥はなかった」と無回答を除いて、仕事をしている人の55.4%がコロナにより何らかの仕事の変化があったと答えており、内容別には「①働く日の数や残業などが減った、仕事が減って困った」が35.7%、「⑥リモートワークをしたかったが、できなかった」が10.3%、「②休みが取りたかったが、休めなくて困った」が7.2%などとなっています。

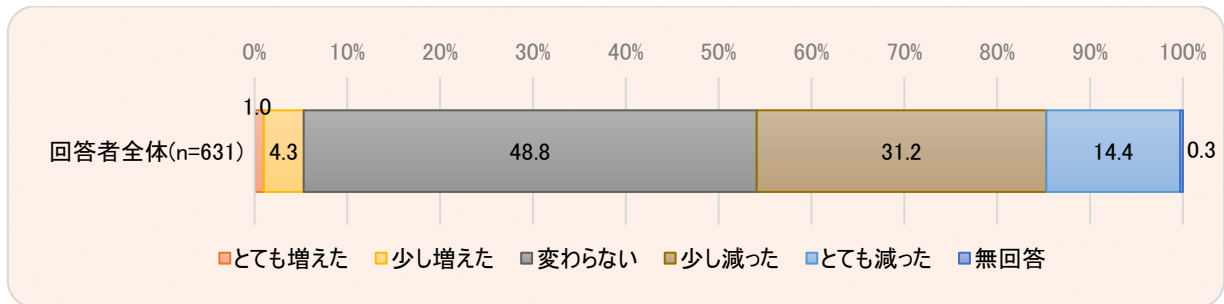
Q. コロナにかかる人が増えてから（2020年2月から）、今の仕事について、あてはまるものを選んでください。（いくつでも選んでください）



コロナによる所得の変化について

コロナにより所得が「変わらない」という人が48.8%、「少し減った」が31.2%、「とても減った」が14.4%、「少し増えた」が4.3%、「とても増えた」が1.0%となっています。

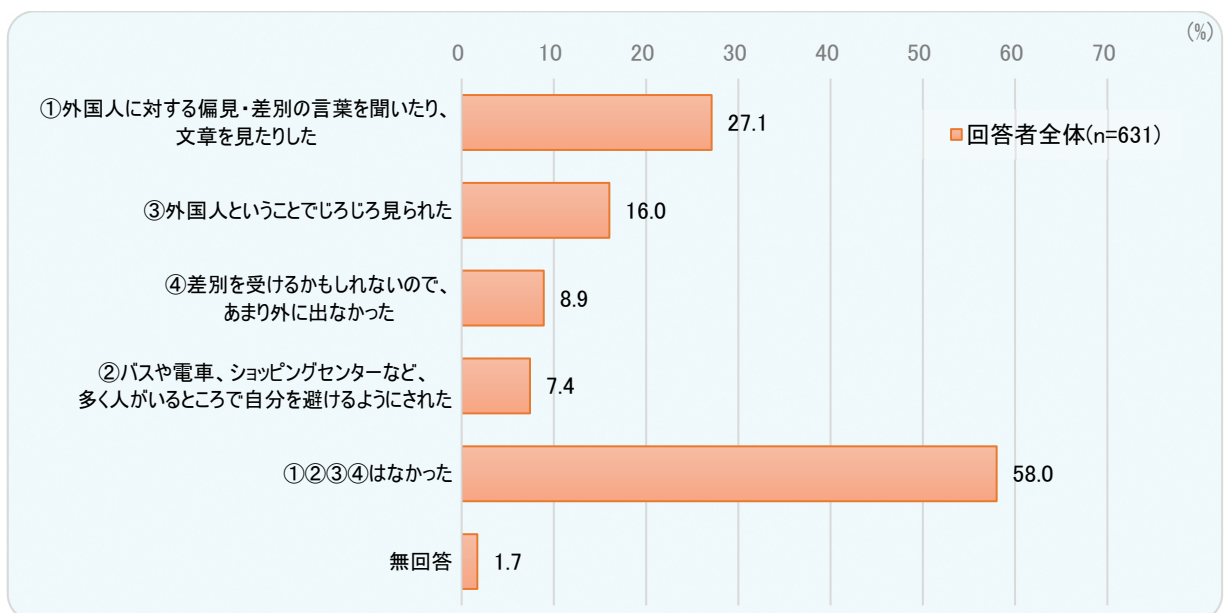
Q. コロナにかかる人が増えてから（2020年2月から）、あなたや家族の給料は変わりましたか。



コロナ後の変化（差別）について

「①②③④はなかった」と無回答を除いて、回答者の40.3%が何らかの変化があったと答えており、内容別には、「①外国人に対する偏見・差別の言葉を聞いたり、文章を見たりした」が27.1%、「③外国人ということでじろじろ見られた」が16.0%、「④差別を受けるかもしれないので、あまり外に出なかった」が8.9%となっています。

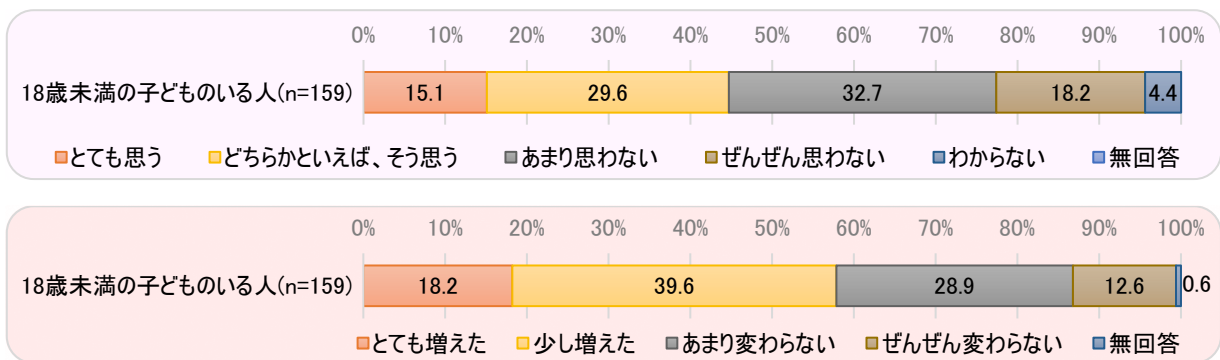
Q. コロナにかかる人が増えてから（2020年2月から）、次のことはありましたか。（いくつでも選んでください）



子育ての不安・負担感について

同居家族に18歳未満の子どもがいる人に子育てへの不安・負担感を尋ねたところ、「とても思う」が15.1%、「どちらかといえば、そう思う」が29.6%と、子どもがいる人の44.7%が何らかの不安を感じたり負担に思っています。また、コロナ後の子育てへの不安・負担感の変化については、「とても増えた」が18.2%、「少し増えた」が39.6%と、子どもがいる人の57.8%が不安や負担が増えたと答えています。

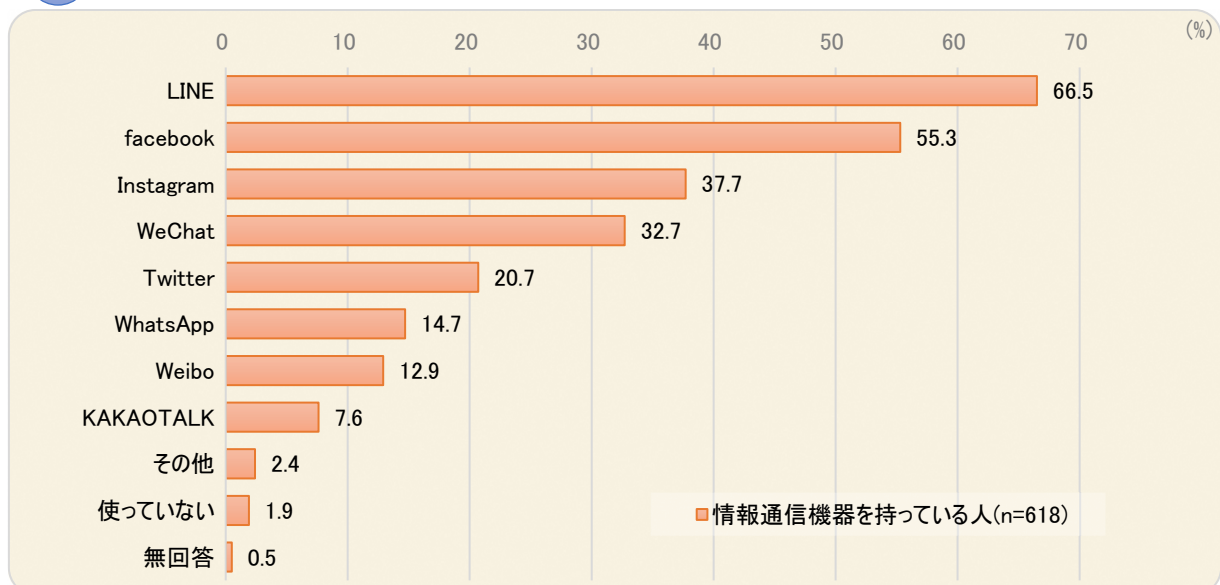
Q. 子どもを育てていて、不安だ、大変だ、しんどい、負担だと思いませんか。また、コロナにかかる人が増えてから（2020年2月から）、子どもを育てていて、不安だ、大変だ、しんどい、負担だと思う気持ちはどう変わりましたか。



SNSの利用状況について

情報通信機器を持っている人によく使うSNSを尋ねたところ、「LINE」が66.5%と最も多く、次いで「facebook」が55.3%、「Instagram」が37.7%、「WeChat」が32.7%などとなっています。

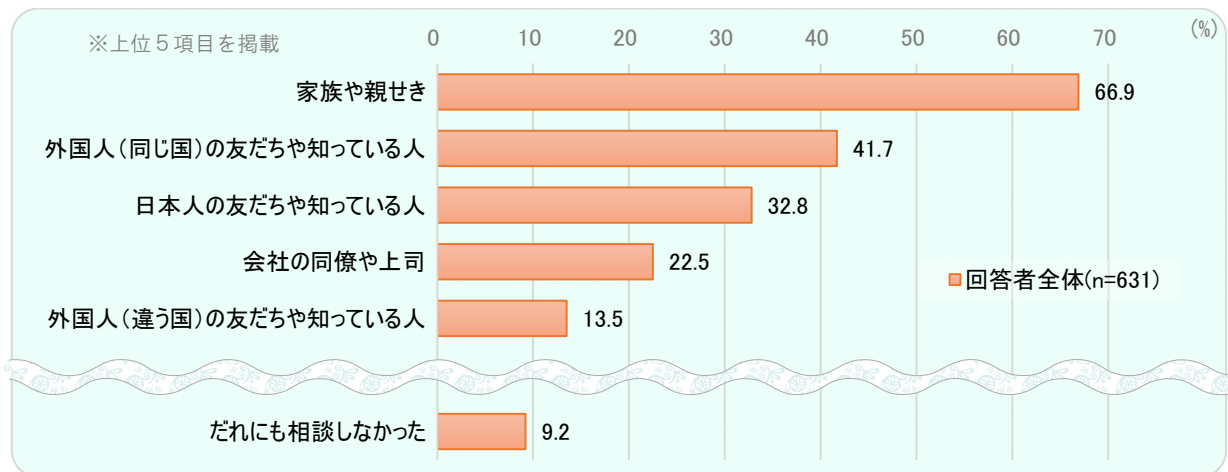
Q. どのSNSをよく使いますか。（いくつでも選んでください）



心配事や悩みの相談について

「家族や親せき」が66.9%と最も多く、これに次いで「外国人（同じ国）の友だちや知っている人」が41.7%、「日本人の友だちや知っている人」が32.8%、「会社の同僚や上司」が22.5%、「外国人（違う国）の友だちや知っている人」が13.5%などとなっています。また、「誰にも相談しなかった」という回答は9.2%となっています。

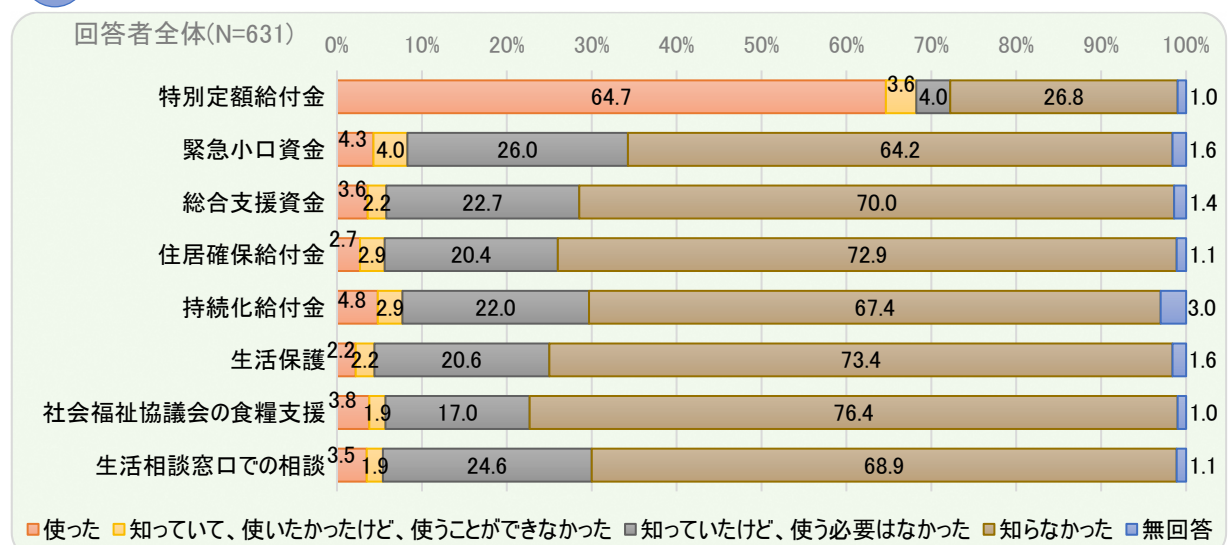
Q. コロナにかかる人が増えてから（2020年2月から）、心配事や悩みがあるときにだれに相談しましたか。（いくつでも選んでください）。



公的支援の利用状況について

特別定額給付金を「使った」と答えた人は64.7%となっていますが、その他の公的支援については「知らなかった」が過半数を占め利用状況は5%以下にとどまっています。

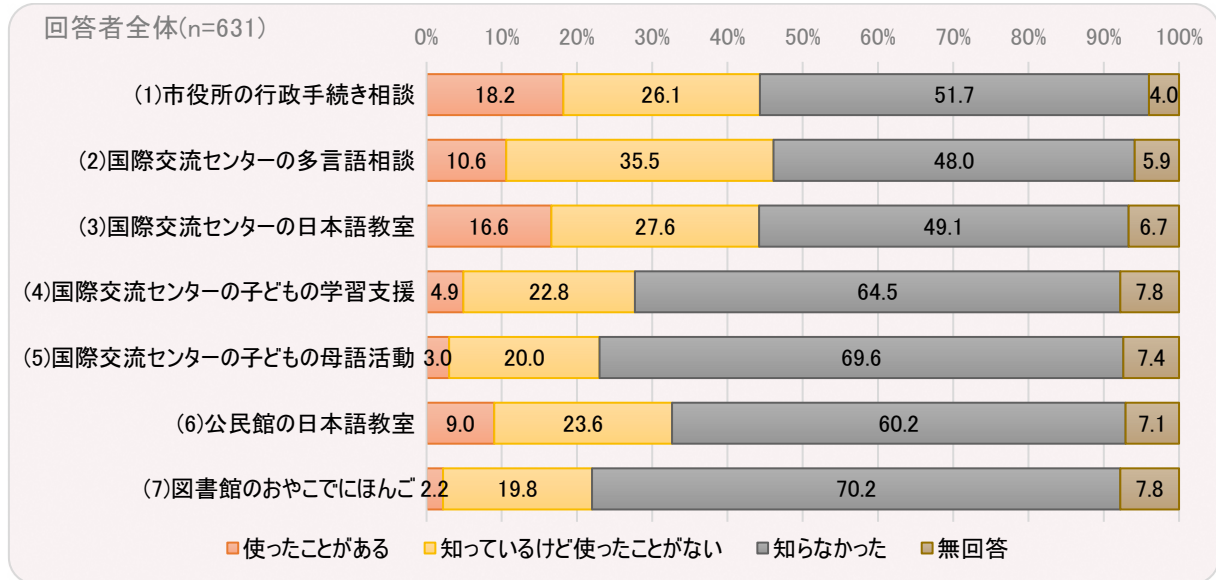
Q. コロナにかかる人が増えてから（2020年2月から）、次の公的な支援を使いましたか。



市や国際交流センターが実施するサービスの周知状況について

「使ったことがある」に「知っているけど使ったことがない」も合わせて、各サービスの周知度をみると、『(2)国際交流センターの多言語相談』が46.1%、『(1)市役所の行政手続き相談』が44.3%、『(3)国際交流センターの日本語教室』が44.2%などとなっています。

Q. 豊中市役所、とよなか国際交流センターのサービスについて知っていますか。



外国人へのインタビュー調査結果について

- ◎新型コロナの感染拡大防止を目的とした水際対策強化のため、日本政府に限らず出入国制限が行われたことで、母国へ帰ったり日本に再入国できないなど大きな影響を受けた。
- ◎コロナの感染状況や、助成金や給付金、支援などに関する情報はテレビ等のメディアやインターネットなどのほか、多様な人とのつながりを通して入手していた。また、行政やとよなか国際交流協会による情報発信についてその内容もさることながら、こまめに発信していること、多言語で発信していることが身近さや安心感につながっているという声もあった。
- ◎そもそも情報源とどうつながるかということは大きな課題であり、うまく情報を得られずに困っていたという声も多く聞かれた。
- ◎コロナ禍以前は外国人が集まる機会を通じて情報を得ていたが、コロナ禍により、集まることができなくなり、情報が得られなくなったというケースもある。
- ◎支援に関する情報は届いていたものの、支援を受けることが在留資格の更新や帰化に影響を与えることを心配して、支援を躊躇したり、受けなかったりしたケースも見られた。
- ◎日本で働く中、言葉や文化、習慣の違いなどから常日頃から不安や負担があることは容易に想像できるが、コロナにより、改めて「外国人」としての自分たちの立場に不安や弱さを感じているという声が聞かれた。また、皮肉な結果であるが、コロナ禍により、日本人との交流が減ったことで助かったという声もあった。

<編集・発行>

豊中市 人権政策課

〒561-8501 豊中市中桜塚3丁目1番1号
電話：06-6858-2654／ファックス：06-6846-6003
E-mail：jkokusai@city.toyonaka.osaka.jp

公益財団法人とよなか国際交流協会

〒560-0026 豊中市玉井町1丁目1番1号（エトレ豊中6階）
電話：06-6843-4343／ファックス：06-6843-4375
E-mail：atoms@a.zaq.jp